

若手職員 座談会 (R4年 Vol.2)~

労働基準監督官 編 ~

兵庫労働局で勤務している若手労働基準監督官で座談会を実施しました。今回は、1年目の労働基準監督官4名、2年目の労働基準監督官1名、3年目の労働基準監督官1名の合計6名に集まってもらいました。

今回、集まっていた6名は、現在各労働基準監督署で監督業務に従事しています。

Q1:「今これを頑張っています!」ということがあれば、教えてください。

岡田:とにかく電話対応を頑張っています。初めて外線の電話を取るときは、すごく緊張しました。先輩職員のみなさんが周りで見守ってくれて、ドキドキしながら初の電話を取りましたね。もちろん分からないこともたくさんありますが、1度取ってしまえば、電話対応そのものには慣れましたね。

山根:電話対応以外だと、主に事業場から、色々な届出書類が電子上で提出されるので、1つ1つ届出書類の内容が問題ないか確認して、受付を行っています。

荻野:様々な先輩が、色々な監督指導に連れて行ってくださるので、すごく勉強になっています。今は修行の身ですので、様々な先輩の監督に同行して、監督官としてのスキルを学んでいます。

田中:私は、2年目ということもあり、初めての司法事件を担当しています。司法事件は、通常の監督指導とは異なる調査が必要になるので、適宜先輩職員に聞きながら、頑張って捜査を進めています。

一同:すごい!

Q2:採用時から、「自分のここが成長した!」と思うことはありますか?

山根:電話対応です。入庁した頃は、今振り返ると電話に出ても、正直



(参加職員)

神戸東労働基準監督署: 岡田 (1年目)

神戸西労働基準監督署: 田中 (2年目)、大原 (1年目)

尼崎労働基準監督署: 速水 (3年目)、山根 (1年目)

姫路労働基準監督署: 荻野 (1年目)

まともに対応できていなかったと思います(笑)。今は相談者の方の話を聞いて、何を言いたいのか、何を質問しているのかというのが、分かるようになりました。

岡田:私も電話の対応で、多少のことでは、めげなくなりました。それに、ちょっとの度胸もついた気がします。多少分からないことがあっても、どんとこいという気持ちで聞いている。(笑) もちろん分からないことは、先輩にすぐ聞いていますし、みなさん優しく教えてくださいますよ。

荻野:私も電話対応には、慣れてきました。最初は、電話を取り次ぐだけでも、話し方で相手にむっとされていた気がします。曖昧なことを伝えるよりも、折り返してでも間違いなく伝えることが大切なので、相手への伝え方など数をこ

なすことで自信ができました。

大原:私は、任官前に民間企業で勤務していたのですが、その時の自分の周りは、業務の専門職ばかりだったので、普段の会話は専門用語を使って、高度な話し合いになっていたように思います。

監督署で対応する方は、法律をよく知っている方もいれば、あまり知らない方からも問い合わせがあるので、相手の言いたいことを整理するために、図解してメモする等、法律を知らない人にも、分かるような説明を心掛けています。

一同:おおー! (パチパチ)



Q3：労働基準監督官を志望した理由を教えてください。

速水：私は、監督官を題材にした漫画を読む機会があり、純粋に楽しそうだなと思いました。漫画の影響か、実際の職務ともあまりギャップは無かったと思います。

田中：私の父が工場で勤務していたので、仕事上の災害が身近にあることを感じており、特に労働災害を防いでいきたいという思いから、志望しました。

また、学生時代の先輩に監督官に任官された方がいて、直接お話をお伺いしたときに、自分の裁量で監督業務や、庁内業務を進めていくことのできる自由度に憧れたところもあります。

大原：民間企業での利益や性能の追求もやりがいにはありましたが、一方でコスト等の兼ね合いで自分の働き方にジレンマも感じていました。公務員は、国民生活に直結するサービスを提供するものなので、その点に魅力を感じました。

また、民間企業時代、自分が現場で危険な作業を行っていたので、当時の安全衛生の知識を生かしていきたいと思い、志望しました。

岡田：私は、大学時代のアルバイト先の店長が長時間労働により、疲弊していたのを間近で見たことで労働環境に疑問を抱いたことがきっかけです。また、他の官庁と比べて異動のルールも明確に決まっており、自分のライフプランが設計しやすいのも決め手でした。



山根：私は、仕事の内容が、労働環境をよくする仕事であれば、モチベーションアップや、自分の仕事のやる気に繋がると思ったので、志望しました。実際、全国で働く監督官は、全員一つの明確なテーマに向かって職務を行っており、監督官として、一体感を感じます。

荻野：私は学生時代、路上生活者へのボランティア活動をしていました。労働者も、意図せず弱い立場に立たされるおそれもあるので、そういった方を少しでも無くしたく、監督官を志望しました。

Q4：全国の労働局から、「兵庫労働局」を選んだ決め手はなんですか？

山根：私は、兵庫県出身でしたので、地元に貢献したいという思いがありました。また、兵庫県には、様々な産業があるのも魅力でした。せっかく監督官になるのであれば、色々なことを経験してみたかったですね。

岡田：私は、兵庫県の出身ではなかったですが、学生時代関西にいたこともあり、関西で働きたいと思っていました。近畿圏の労働局を比較するために、各労働局が開催している説明会に参加したときに、兵庫県の雰囲気がよくて、同じような先輩がたくさんいる職場で働きたいなと思い、最終的に決めました。実際勤務してから、周りの方々は優しい方ばかりです！

速水：私は、愛媛局採用の3年目の監督官で、今年から兵庫局に来ました。愛媛局にはあまり無い、製造業などを積極的に監督したいと思い、どの労働局にするか検討しました。兵庫県は、阪神工業地帯を中心に、大規模製造業やその下請けなどが存在することに加えて、大都会に比べるとやや労働関係の問い合わせも少なめで、積極的に

色々な業種の事業場に対して、監督指導ができる業務のバランスが良いのではないかと考えて選択しました。実際、多種多様な産業があり、業務量のバランスや偏りも無く、すごく勉強になっています！



Q5：最後に未来の労働基準監督官へメッセージをお願いします。

速水：監督官の仕事は、学生時代に学んでいること、民間企業で経験していることが、必ず役に立ちます。意外かもしれませんが、学生時代、法律の勉強をしていた監督官の方が少数かと思います。

法律の知識などの習得に不安があるかもしれませんが、労働大学校や兵庫局で手厚い研修があり、自然と身につきますので、全く不安に思う必要はありませんよ。

田中：色々な業種の方と関わることで、自分の知見を広げ続けることができます。また、職場のみなさんは良い人ばかりなので、人間関係に悩むことは絶対ありません！

荻野：監督官の臨検対象には、様々な現場や会社があり、同じものは一つもありません。そのため、常に新しい発見や新たな刺激があり、一生飽きない仕事です。ぜひ目指していただければと思います。

大原：労働は、生きている限り必ずすることです。それを支えることを職務として行うことができるので、すごくやりがいのある仕事です！少しでも、興味のある方はぜひ兵庫局に来ていただけたらと思います。お待ちしております！